

令和6年度第1回多治見市総合教育会議 議事録

(要点筆記)

日 時：令和6年9月26日(木) 午後3時00分 ～ 午後5時15分

場 所：多治見市役所駅北庁舎4階第3会議室

出席者：【会議構成員】

多治見市長	高木 貴行
教育長	仙石 浩之
教育委員(職務代理者)	大嶽 和好
教育委員	木下 貴子
教育委員	鈴木 亜紀子
教育委員	水野 豊

【事務局】

《教育委員会》

熊崎副教育長、東山教育次長、丸山教育指導監、山本教育総務課長、丹羽教育推進課主幹、前田教育研究所長、渡辺食育推進課長、伊藤福祉部課長(放課後児童健全育成調整担当)、南谷課長代理(教育推進課)、小久保課長代理(教育総務課)、市川総括主査(教育総務課)、古川指導主事(教育相談室)、水野課長代理(食育推進課)、村瀬主査(教育総務課)

《市長部局》

細江 恭平総括主査(企画防災課)

《校長会》

林 伸彦小中学校校長会副会長(精華小学校校長)

【説明者】

中嶋 I C T 推進支援員(教育研究所)

議題

(1) 保護者を巻き込んだ情報モラル教育の進め方

【教育委員】

保護者を巻き込むことは基本的に難しい。文書で保護者に配布しても、あまり注意してもらえない。一番確実なのは、参観日に学級懇談などで先生が直接保護者に危険性等を説明すると効果的ではないか。ニュースで聞いても、聞き流されてしまう。

【教育委員】

自分の娘が小学生のとき、参観日に、体育館で児童生徒も保護者も集められて警察から具体的な例など話を聞いた。子ども達もすでに習っているだろうが、リアルな話を保護者も一緒に聞くので、効果的だと思った。子どもを通じて聞いても保護者には伝わりにくい。子どもがどんな様子で聞いているか見えた方がいい。

【教育委員】

I C T活用教育の現状は、ある程度保護者にも浸透している。ただ十分かというところ、十分でないかもしれない。情報モラル教育の前に事前にどのようにI C T教育が行われているか体験していただき、その上で、危険性について説明した方がいい。場合によっては、保護者だけでなく、地域の方々にも学校開放などの機会にI C T教育がどのように行われているか見てもらって、その上で危険性についても説明するといいい。

【教育委員】

青年会議所で情報モラル教育を行ったことがある。小5の国語の教科書に情報は立ち止まって考えてから発信しようという内容が掲載されていて、それを書いた下村先生をお呼びして親子に対し、情報の受け取り方、発信の仕方について学ぶ授業を行ってもらった。渡辺前教育長にも来ていただいた。学校でやれなくても地域でも親子で参加できるものがあるとよいというのは皆さんと同じ意見である。情報モラルの話が出てくると「ネット」という切り口でくくられるが、I C T教育が始まったから出てきた問題ではなく、ネットが進んだからでもなく、普段生活している中であるもの。実際に目にしたわけでもない不確かなことを噂で事実かのようにになってしまうことがある。傷つけるつもりはなくても、誰かを傷つけてしまったりする。子どもだけでなく、大人でもあるもの。I C T教育に限った話ではなく、大人も子どもも全員が学ぶもの。学び方は年齢に合わせなければならないが、学ばなければならないのは大人も子どもも同じなので、市民全員が学ぶ機会があるとよい。

【事務局（司会）】

学校での情報モラルの現状はどうなっているか。

【小学校長】

小学生もスマホを持つ割合がすごく増えている。持つとSNSをやりたくなる。中学生になると、クラスの中でグループラインを組んで、朝起きると100、200とメッセージが入っている。その中には人を傷つける内容もある。そこで初めて親御さんがどうしようと思われる。扱う側にも与える側にも責任がある。学校の中で親子そろった場で情報を与え、同じ情報に基づいて親子は考えることができるので、本校でも、今年度中に、特に6年生に性教育と情報モラルについて親子で学んでもらおうと考えている。困っていることは、親御さんはスマホを簡単に与えるが、何か問題が起こると学校に頼ってこられる。学校で助けてあげたいが、目に見えないところで起こるので、もう学校としては手に負えない。警察に相談するようお話をするが、冷たいと言われてしまう。意識のレベルの違いもあるので、共通認識をもってもらおうよう、学校で親子そろって、共通の情報を得てもらおうことを現場は目指している。

【事務局（司会）】

今後の情報モラルということでお考えがあればお聞かせいただきたい。

【I C T推進員】

今年に入ってからいくつかの学校で親子想定の中で情報モラルの授業を行うことが多くなってきた。指導内容は、立ち止まって、よく考えて、困ったら相談するということを柱にして伝えている。その形が本当に良かったか不安があったが、今日この場で

ご意見をいただいて自信がついた。親も学び続ける時代になっている。新しい知識がどんどん入っているので、先生も実は知識がないということがある。親子も先生も一緒に考えながら学んでいくという時代になっていくだろうなと思っている。

最近得た情報であるが、今までは、 아이폰 だったらアップルが認めたアプリ、アンドロイドだったら、グーグルが認めたアプリしか使用できなかったが、今後は自由にインストールできるようになると聞いた。つまり、格安で危険性も高いアプリも入れられるようになる。そういった情報も子どもにも保護者に提供し、立ち止まって考えるよう、困ったときは相談するよう今後も伝えていく。

【教育長】

今の親世代は、大体 30、40 代でスマホに慣れている世代で生活の一部となっている。そのため、スマホへの危険認識が低いところがあるのではないかと。自分達の世代は危険認識が高く、それも問題なのかもしれないが、考え方の違いを最近よく実感している。30、40 代の親の間でも、危険認識は違う。こういった問題にシビアな人もいれば、親自身が危ない人もいる。親子で情報モラルについて聞くことは大切な一方で、個別最適な課題はそれぞれ違うという難しさがある。ではどうすればいいかだが、致命的な危険には遭わないようにしないといけないが、小さな痛い目には遭うのは避けられないかもしれない。そこで学んでいただければと思う。人をいじめたり、傷つけたりはもちろん絶対いけないが、それがあつたら一切いけないとすると、取り上げるしかない。暴論かもしれないが。

【市長】

質問だが、ロイロノートで LINE などではできるのか？

【ICT 推進員】

SNS はできない。

【市長】

この議論を始める前に、多治見市が持っている情報の中で、スマートフォンを与えられている生徒が各学年でどれくらいいるかというデータはあるのか。データがないのに、漠然と情報モラルについて議論はできないのではないかと。まずはそのデータが必要ではないか。例えば、全国的にどの年代で LINE でのいじめが増えだす傾向があるというデータがあつて、初めて保護者にこの年代で増えだすからと注意喚起ができるのではないかと。データに基づいてその年代に合わせた情報モラルの授業をすべきではないか。

【教育委員】

令和 3 年調査のデータならばある。

「ほぼ毎日インターネットをしている」は小学生で約 45%、中学生で約 75%。

平成 28 年の調査では、小学生約 23%、中学生 60%。

【市長】

小学生でも細分化したデータでないといけない。

あまりスマホを持っていないであろう小学 1 年生、その保護者に情報モラルの授業をしても意味がない。僕の感覚だと 5、6 年生くらいから持ち出すと思われる。小学入学

時、中学年、高学年、それぞれに合わせた情報モラルの授業を行うべき。深掘りした対応をして欲しい。

【事務局】

学校で起こった情報トラブルについて3つお伝えする。情報モラルはそれらの3つのケースに分けて考えていけばいいのではないかと考えている。

一つ目は中学生でLINE とかの SNS アプリで悪口を書いてトラブルになった。

二つ目は10年前の古いデータであるが、小学4年生の生徒が、自分がゲームをしている画面を自分の顔は映さずにネット動画で配信した。両親はその生徒にスマホは与えていない。祖父母のところで携帯を借りて、内緒でゲームをしていた。暗転した時に、自分の顔が映り込み、体操服の校章も映ってしまい、個人が特定され、全く知らない人とトラブルになった。

三つ目は昨年に関わったことで、小学2年生でスマホを持っていたケース。その生徒が遊んでいる動画が学校のホームページに掲載されていて、なぜかという問合せが保護者からあった。警察で調べたところ、学校のホームページに動画があげられていたのではなく、生徒が持っているスマホでグーグルマップにログインした状態で、グーグルマップの中の学校をタップして、意図せず友達と遊んでいる動画をあげてしまった。

情報を意図的に発信する情報モラルもあるが、低学年には、保護者がどういうものを与えるかという情報モラルもある。低学年には自分でスマホを持っていなくても、使えるスマホを持っているという生徒もいる印象なので、その対応も必要かと思っている。中学年になると、保護者には内緒で使っている場合もある。その中で子どもが知らない危険が潜んでいるので、そういったところは情報モラル教育の中で、発達段階に応じて対応することは必要かと感じている。

【事務局】

今の話題でいくと、情報モラル教育はどのような風なやり方がいいかということだが、そもそもまずは実態をきちっと把握しなおして、対象を絞ってそこに効き目のある支援をしていかなければならないと思う。今、教育相談室の方で少し調査をやっているのでお伝えする。

【事務局】

令和5年度の県の調査によると、中学校3年生で、市、スマートフォンの所持率、男子が80.5%、女子が84.3%である。小学校6年生に関しては、小学校で男子46.5%、女子で57%になっている。

【事務局】

恐らくは多治見市もこの結果も同等であろうと思われる。

(2) AIの作成、生成AIの各教育への活用

【市長】

教育委員の皆さんで生成AIをもう既に使っている方はいるか、また今この会議に参加している人の中で生成AIを使っている方はいるか。使っている人もいない中でこの議論をするのは難しいと思う。何も知識がない中で、やってもいないのにこれをどう活用するか議論は難しい。

【ICT推進員】

実は生成AIの研修を去年ぐらいからやっているが、熱心な方とそうでない方が教員の中にいる。テレビでは話題になるので、私たちの接している教員が、関心がないのかもしれないと思った。学校とか教育の狭い中で、そういう考え方では駄目だなと思って、広くどういう印象を持っていらっしゃるのかお聞きできればと思ったが、課題の出し方が間違っていた。

【教育長】

今、ICT推進員は、すごく可能性があるとか、逆に危険性があると思っているのか、私は逆に聞きたい。

【ICT推進員】

すごく進歩が速くて、半年前だとちょっと仕事には使えなかったが、半年たって、仕事にすごく役立つようなものが出てきたのが現状である。今までだと、よくニュースで聞いていると、疑わしい情報があったが、今は、情報ソースがどこか教えてくれるので、正確性が高いか低いかという判断ができるようになってきた。

専門的な分野においても、例えば学校の人事が変わっても、文章をAIに読ませて、このことってどうなってるのか聞くと、ちゃんと答えてくれる。今まではたくさんの文書を自分で全てめくって読んでいたが、その必要がなくなってきた実態も結構ある。働き方について役立つのもっと使えばいいと思っている。

その逆で、子どもたちに使わせるのは慎重になっているが、学校で使っては駄目と言っても、家できつと使っていたりする部分があるだろうから、教育に携わる大人は、関心を持っていないと駄目ではないのかと思う。自分が使えるかどうかは別で、これどうやればいいのかと関心を持って聞いてみたりできるといいと私は思っている。なかなか関心を持ってくれるかは温度差が激しいが、教師自身がアンテナを高くしてほしいという願いがあったので、皆さんどう思っているか関心があった。

【事務局】

本当に技術の進歩というか、情報の更新が早いので、この半年ぐらいの間でも随分、生成AIを教育の場でのということも意見もあり、意見が本当に様々になってきたなど感じている。今後その動きを注視しながら、先ほどの情報モラルとあわせて、子どもたちがどう学ぶことが効果的かというようなことで、研究していきたい。

【教育長】

実は市役所の中でも、生成AIの今の状況とか、今後の課題みたいな発表があって、非常に思うところがあった。もっとストレートに言うと、例えば学校の先生が自分の教科のテスト問題をつくるのが面倒くさいから、AIに小学校3年生の前期はこういう

ことをやったから、これについてのテスト問題作って欲しいと言ったら、多分簡単にできる時代である。そうなってくると、この子どもたちの問題でもあるが、これからは教員のこの生成AIへの向き合い方も市内で一定程度統一的な基準を、さっきのモラルの問題にも関わってくるが、そろそろ考えていく必要がある。すぐの話じゃないが、近い時期の課題でぜひお願いしたい。

【事務局（司会）】

今日、タブレットの更新とか通信環境など課題として挙げられているが、事務局から情報提供頂けるようなことはあるか。

【教育長】

教育委員会のタブレットの更新について情報提供する。何億もかかるが、国から一定程度支援はあるので更新はできる。ただし、それには国が指示した条件をちゃんと満たしてくれたら支援するとなっている。今回国がどういう条件を出したかという、県内で統一的に調達してください、と。同じiPadを買うところで組んでもらい、そこで共同で調達、そうすれば安く買えるでしょうということなので、今、岐阜県内でiPadを使う市町村とグループを組んで、どうしたら安くなるか工夫をして、何とか来年、更新をやろうと準備を進めている状況である。

【事務局（司会）】

今日は学校現場でのICTと教育ICTということで、現状を説明をしていただいて、主な課題について御意見を伺ったが、もう少しICT教育という広く捉えた中で、委員さんの中からぜひこんなことを議論したいということがあれば御提案頂けるとありがたい。

【教育委員】

よくいろんなアンケートで、「ICT活用してますか」、「毎日活用している」、「ほぼ毎日活用している」という結果を公表されることが多いが、iPadはあくまでツールでしかない。使ったかどうかを目標達成の評価基準にするのは、もうそろそろやめたほうがいいと思っている。導入時期ならばそれでいいと思うが、教育委員で土岐市、瑞浪市も学校訪問するが、多治見市は上手にiPadが使われている。iPadを使っているか、使っていないかで市の成果を測るのはもうやめていい時期だと思う。何のためにやっているかにもうちょっと割いていただいて、教師の従事時間が減ったかとか、校長のほとんどが学力を問題にしているの、子どもたちの学力が上がったかを測る質問にして欲しい。

今の教育が割と授業でお友達と話すことが多い。周り交流与合作しようという時間がとても多くて、1人で問題をたくさん解いてトレーニングをしたりとか、ものを覚える時間に余り時間が使えていない。もし授業中に仲間との交流に重きを置くのであれば、どこかの時間でiPadを使って、記憶の定着とか問題に取り組むことをしっかりやれば皆さん学力を問題にすることはなくなるのではないかと。学力の部分での活用をもうちょっと浸透させていただければと思っている。

【事務局（司会）】

タブレットをとにかく使っていこうという段階はもうそろそろ卒業して、中身に移

りましょうという御意見だったと思う。他の委員は関わってきていかがか。

【教育委員】

今回の課題で授業改善のところの個別最適な学びとはどうやって使うのか。算数で共栄小でA Iドリルを使っていたと思うが、入れた方がいいのかどうかであるが、解けない問題はそれぞれ人によって違って、コンピューターの方がこの子はこの問題が解けないと判断するのはうまい。それをうまく使って、教育委員がおっしゃったようにある程度の時間を、今は個別学習の時間として、苦手な問題をその子のスピードで自分で解いていくという時間があってもいいかなと思っているし、実際使っていると聞いている。

【事務局】

現状だが、今、共栄小学校がA Iドリルを活用している。今教材を買うと、紙の教材とそれに附属して安い値段でデジタルドリルが使える。

次に出てきたのがA Iドリルで、多治見市では、共栄小で利用されており、そのほか10月から2校の小学校で導入する予定。A Iドリルになると何が違うかというところ、A Iがその子のつまづきなどを分析してその子に応じた問題を出してくれるというところが一番違うのかなと思う。

またA Iドリルもいろんな種類があるので何とも言えないが、中にはその授業の中で、先生が子どもに示す機能が付いているものもある。ただ、A Iドリルは個別最適に個別学習の時間として使えるが、それを使って共同的に探究的な学習をしていくにはどういうふうに活用していくかは課題である。

授業の中で、こういう場面ではこういう習熟で基礎的な力をつける、あるいは、この時間は短期的な学習をして考える力をつけていくなど、先生が狙いを持って授業で学習の道具として使っていくことが大事だと思う。

【事務局】

学力向上ということに絡めて、学校からもA Iドリルを取り入れていくという方針が最近出ている。校長会の要望の中にも確か、A Iドリルを、市内標準装備にして欲しいとあった。今まで使っていた計算ドリルや漢字ドリルへの質問とか、今、議論がされているところである。

【市長】

このG I G Aスクール構想について発表していただいて、すごく感じるのは、先生方の仕事の軽減は非常に大きいのかなと思う。特にデジタル教科書を導入してから、専門分野じゃなくても、こうやって教えられたり、動画を見せたりして、子どもたちの学びが高くなることはすごく理解ができた。

さっき教育委員が、僕が言いたかったことを言って頂いたが、こういうデジタルだとかi P a dに慣れるっていうことはもう終わっている時期だと思う。率直な意見として、このG I G Aスクール構想で子どもたちの何が違ってくるのか。学力調査でもこれを導入したことによって学力が上がったというわけでもない。では、コミュニケーションのところが上がったのかというとその指標もない。片や、デジタルを入れたことにより書くことなどは確実に減った。デジタルテレビで目が悪くなったことも考えられる

が、それも指標があるのか。そこら辺を皆さんどのように分析しているのか。多治見市はこれをして、結果子どもたちも負担が減った、教員の負担が減って子どもたちと向き合う時間が増えた、ということがあるのか。先生たちの残業時間が減ったということだけなのか、具体的な数値はあるのか。

【ICT推進員】

具体的に数値的に簡単に言えるのは、先生たちが、タブレットで情報交流をするようになったので、導入した1年目に私の学校では、消耗品費が20何万浮いた。机の上に組まれる文書がなくなって、LINEのようなチャットで常に連絡が入ってくるので、打合せの時間が短くなったと実感している。それが全てではないが、先生方の働き方改革には大きく影響していると思っている。

子どもたちの学力はというと、全国学力学習状況調査結果は向上してはいない。状況の分析でいうと、これは、個人的な意見だが、今までの授業は、まず20～30分先生が説明して、分かっている子も分かっていない子もいて、もう分かっているから面白くないよなあという子もいると思う。みんなで交流する時間を取るが、分からない子には、もうちょっと考えたい時間があるのに、時間が限られていて、次へ進んでしまう。分からないのに、さらに分からない説明を聞いているということが起きていたと思う。

岐阜県の先生は非常に真面目なので、昔の授業の形態をずっとやっているのが現状で、写真にある共栄小の授業でいうと、先生の説明が15分ぐらいで終わって、その後分からない子が集まって先生に聞いている。この子は友達に教えてと言っている。この子は問題が解けたので答え合わせをしている。この子はもうそれも終わったので、15分ぐらいで100問以上問題を解く。AIドリルがどんどん問題を出して、解いていく子もいる。そういうような形の授業になっていくと、これまで分からない子がいると、その子達に先生たちが教える時間が長くなる。それをこれまでは解けている子はただ黙ってみて我慢していた部分があったが、子ども自身で次の単元の問題を解くことができる。当然この後は人に教えることで自分が学んでいくなど多様な学びも生まれてくる。こういうふうに授業が変わっていけば、結果が出ると思うが、今すぐに、なかなか先生方の授業改造はできる状況ではなかった。

なぜこういう授業ができるようになったかという、私たちICT推進員の4人が研究所に所属しながら、全国的な研修会に出席したり、新潟の大学の発表に行かせていただいて、今の時代はこういう風になっているんだっていうことを掴んでこれだからだと思っている。それを、実践してみようと先生方や学校にやっと思示ができるようになってきた。昔ながらの授業を改善しなければならないという使命を感じながら、ちょっとずつ石を投じている状況。

過去の岐阜県の授業の形態でいうと、教えたらちゃんと教室を回って、子どもが学んだことが身についたか見届けるといってもので、一生懸命先生が説明する授業になっていたというのが私の分析である。だから、岐阜県の全国学力調査結果も低くなってるんじゃないかと私個人は思っている。小学校はそうだと思っている。ただ中学校は教科によっては、学びながら子どもたちで教えあっていると学力に結びついていくことが結構ある。

学習のピラミッドというものを御存じだろうか。人から聞くよりも、友達など人に教えると定着率が高いというもので、授業の中でお互いに教え合うことで知識が定着していくという理論がある。自分が陶都中学校の校長のときには、こういう教え合いや交流の時間を長くすることを推進したときは、全国学力調査の結果は結構いい数値が出ていたので、私自身は自信を持っていた。ただ、なかなか市内に広がっていかなかったもので、残念だと思っている。多治見市の小中学校は、そこそこの結果を残しているので、小学校に新しい授業形態が入って、活用できていけば多分結果が出ると信じている。

【市長】

ということは、今のところ、ICTを活用、普及はしたんだけど、あんまり子どもたちの学習の伸びにはつながっていないということか。

【ICT推進員】

はい。とはっきり言っていないかどうかは分からないが。

【市長】

いや、逆にそういうことを議論するべき。

【教育長】

さっき教育委員と市長から問題提起があったのは、成果をはかる指標が今までだと、普及期はどれだけ使ったかっていう指標で測ればよかったが、これからはどれだけその学習なりなんなりにちゃんと落とし込めるか、深まっているかっていうのを測る指標を見つけていけないといけないということだと思う。そう簡単にはなかなか見つからないとは思いますが、一つの案として全国学習調査の結果というのは確かに数字で出るものなので、それで求めればいいのか、いやもうちょっと違った物差しを我々自身で考えないといけないのかというところに行き着くような気がする。

【市長】

いや、今何かその成果はあるのか。僕は教員の働き方改革も成果としていいし、先生と打合せしなくていいとか、確認しなくてもいいとかでもいい。例えば、不登校の問題もそうで、ICTをやって、子どもたちがコミュニケーションをとるようになった、楽しくなったから、不登校も変わりました、でもなんでもいい。何か成果があるかと聞いたら、今のところ余りないというお答えだった。今の話を聞く限りだと、タブレットは普及したし、使い方も大分上がってきたが、先生たちの教え方が時代に合っていないというのがICT推進員のご意見であった。もしこれを変えることによってもっと個別最適な学びができるというのなら、本来僕らの結論は、先生たちの教え方の改革をまだしなきゃいけないということ。子どもたちは慣れてきた。だから、今度は先生たちがこのICTとデジタル教科書を使って変わることで、結果として子どもに影響するんじゃないかというアイデアを頂いた。ということであれば、今、僕らは先生たちをどう変えていくんだという議論を進めていかなければいけない。

【教育長】

僕は整理する役割じゃないかもしれないが、恐らく、先生の働き方については、先ほどの報告にもあったが、かなり大きく改善というか、役に立っていて、数字でも、確かに学校への滞在時間、現実には相当ここ数年短くなるし、実感的な意味でもいろんな成

果があった。それから、不登校の問題でいうと、現実にタブレットを使って遠隔で授業に参加ができるようになったことによって、参加者数も一定程度出てきてるので、そういう意味でも効果があった。ただ本丸が何かっていうと、やっぱりそれぞれの授業の中で学習というものに対してどれだけ深みを持たせていけたかっていうことのような気がする。だから、逆にもう高等教育でずっとやってこられている教育委員にその辺りどうお考えなのか聞きたい。

【教育委員】

教育研究所で出しているICTの活用の冊子があるが、すごく内容が充実しているが、それに載っているのはICTの活用事例というのはこういう使い方の説明までだったと思う。次は、こうやったらこういう結果が出たとか、あるいは、教える側として、自分の目指している方向に、こういうやり方で活用したらかなり近いものになってきた、成果が上がったって成功事例もぜひ載せてもらい、多治見市の各学校も含めて共有できたらいいと思う。各学校でそれぞれいろんな教科で、実践されて、教える側として効果があったとか、あるいは、確かに生徒に対して、子どもたちに対してこういうことでいい影響があったとか学習を進めることができたとか、生徒がどんなふうに変わっていったかとか。そういう事例をぜひ共有できたらと思う。

【教育委員】

指標についてだが、事例でももちろんいいが、導入前と導入後でどれだけ学力が伸びているかデータがあるとわかりやすい。数値に出ないものでも、不登校の子が参加できるようになった、先生が資料を作成するのに時間が短縮できたというのでもいい。

【市長】

結局何か基準がないと成果が上がったか下がったか分からないと思う。だから、さっきのスマホの件もそうだけど、こういうデータありますかと聞いた。

僕は子どもたちに自己肯定感や成功体験の積み重ねと言うが、先生たちも同じで、いろんな子どもたちが十人十色いるから結構指導に迷われると思うから、教える中で、いろんなところでこういう成果があるよとかこういうことをやってみたら良かったってことが積み重なっていくことが僕は先生たちの自信にもなっていくと思うし、やりがいにもなっていくと思う。漠然とこれ良かったですと言ったって、ふうんっていう話だけになる。そこを皆さんが深掘りしていかないといけない。せつかくみんな議論するのだから、そこはやっていきたい。ただ僕はICT推進員の方がさっき言ってくれたように、いや普及はしたけどこれが今まだ子どもたちの学力にはつながっていないって言うてくれたことは、実はすごく嬉しかった。それを言わなかったら、実際上がってないんだから、では何が上がったのか聞かざるを得ない。そこが課題だということでみんなでどうしますかっていうのが本来の総合教育会議であって、今後議論していくことだと思う。

【ICT推進員】

実は出したいくない、アンケート結果があって、たくさん使っているけど、授業での使い方がいま一つだなという結果が出ていた。その結果からすると、先生たちを変えなければならぬという話になるが、それはなかなか厳しいなと思っていた。

【市長】

そうなると教育委員会は何をやるかっていったら、やっぱり先生たちをどういうふうに指導していくかっていうことを本来は前提としてこのGIGAスクール構想のところでは議論しなきゃいけない。

【教育長】

多治見市にこの4名のICT推進員の方を置いたことによって、今話題になったようなことがより如実に分かってきた。他の市はそこまでの問題点が露出してくることがあまりない。だからそういう意味では、数字としての成果は確かにないかもしれないが、要は行き着くところやっぱり教員じゃないかと課題として共有化できたことが、4名の方にICT推進員を今やっていただいている一つの成果としては大きいのではないかと実感をした。

AIドリルとかいろんなテーマが出たが、もう本当に普及期が終わったのかというところはまだ分からない。さっきの生成AIのところもそうだが、次から次へと今新しいものが出てきているので、深めていくっていう部分と、でも新しいものに何とか追いつくっていう部分と、両方あって、いろんな先生方をICT推進員にコントロールしてもらって、今日出たその教員の教え方のことについても緒についたばかりだというぐらいの認識でやっていくことが重要なと思う。市長の言われる指標を設けるのは簡単じゃないなと思う。でもそれを僕らの宿題というか、課題にしていいかなと思う。

【教育委員】

教える側だけじゃなくて、子どもたちの声も聞いてみたい。子どもたちにとって、こういう学び方とか、あるいは教えられ方とかだと自分にとっては分かりやすかったとか。今までなかったタブレットで教えられたら、自分にとってはわかりやすかったとか。学力の高い低いにかかわらず、自分にとって合ってるかどうかで聞けば、子ども達の様子、ICTの効果についてももう少しはっきりした数値で出てくるかもしれない。

【教育長】

毎年定期的にやってくとその変化も出るかもしれない

【教育委員】

数字で答えてもらうというよりは、書かせてもいい。自分としてはこうだと。教えられてる立場でどう受け止められているのかわかるといい。

【教育委員】

市外にも目を向けて頂けたらと思う。海津市がAIドリルを取り入れたりとかしている。先ほどICT推進員が言われたように、教員が、一方的に教える時間を短くしてあとは子どもたちにやらせているというのを取り組んでいるというのを去年の県の研修会の中でやっていて、本当に、さっき言われたような話だった。市内でこれから取り組んでいこうということに対して結果が出てないのは当たり前なことなので、市外の話を一っぱい聞いていただけるといいかなと思う。

【市長】

ICTはいつからやっているのか？

【教育長】

3年目になる。

【市長】

さきほどの話だと、ICT推進員が導入されて、教え方などだいぶ変わってきたということだが、ICT推進員は4人で足りているのか。執行部として、予算を教育にどう使うかというふうに使っていくかの参考とさせていただく。子ども達のためにICT教育を推進していくのに、もっと増やしてほしいという要望はあるのか。それとも今のところ4人で足りているのか、増やすにしてもまだそういう人材が育っていないということなのか。

【ICT推進員】

文部科学省が、指定している人数でいうと4校に一人。自分でいうと6校回っている。小学校は1週間のうち1日を費やすことができるが、中学校は半日しか費やせないのも、もう少し増やしてもらえるといいかなとは思っている。ただ、後輩を育てる役割があるからだが、管理職経験者が条件になっているので、人を探すのはなかなか難しいところはある。

お金の話になるが、この情報を得てきたのは、去年の3月に僕が自費で東京に行って研修を受けてきた。教育委員会で旅費は取ってもらってはいるが、昨年度、新潟に2人で参加したが、それも予算がなく、予算をかき集めてもらって参加し、情報を得てきた。でも、東京の研修は予算がないので自費で行って1泊2日で受けてきた。6月の研修は名古屋だったので4人で行けて情報を得られ、やっと石を投げられた。研究所と言いながら、教育研究所は全然お金がなく、自由になるお金が本当はない。今度精華小学校で発表するとき、先生達が教室に入り切れないので、隣の教室に映像飛ばす機械を使うが、その機械の代金が18,000円くらいのものであるが、それすら予算がないので、僕の自費で買った機械を足すという状況だった。研究したいなと思ったときに、どれだけでも欲しいとは言わないが、もう少し自由になるいわゆる研究費みたいなものがあるといいなと思う。今まではこうやって僕みたいに自費切っていいものを見つけてきたりするが、予算がないので、来年度予算で計上してもらってなんとかしている状況。ICT推進員が5人いる方がいいが、もっと研究にお金が使えられる部分が与えてもらえた方がいいと思う。ChatGPTについても、有料版を契約しようと思うと、今の多治見市のシステムだと、クレジットカードがないので、やれない。お金を出していただけないので、自費で多治見市では最先端の実験が行われている。

【教育長】

自己犠牲の上で成り立っていて申し訳ない。

【ICT推進員】

さきほど市外に目を向けてという話があったが、春日井市がかなり先進的で、視察に1回は行かせていただいている。2回目も視察に行きたいなと思っていたら、全国から応募多数で枠に入り切れなかった。授業改善については継続的にやっていきたいと思っていて、春日井市は近いので、視察に行きたいが、ホームページに発表会の案内が上がっても、次の日の10時には申込み締切りになってしまった。後から聞いたら、ホー

ムページで上げたけど、もうその時点で申込みが殺到して事前申込みで受付できない状況になった。ぜひ市長さんの力で見に行かせていただけるとありがたい。

【市長】

今、先生たちの中でも、相変わらずこのG I G Aスクールというか、デジタル教科書を含めて、やっぱり苦手だなっていう先生がいると思うが、I C T推進員の先生たちから見えて、実際多治見市の先生で何割ぐらいなのか。

【I C T推進員】

コンピュータで子ども達に提示しているのが、小学校で90%、中学校は教科によるが苦手な先生が使わずにやってることもある。16%ぐらい苦手な先生が使いづらいと思っている。小学校の先生は苦手だけど9割は頑張ってる。子ども、児童生徒一人一人の理解成熟に合わせて大きな課題等に取り組みせるということになると40%ぐらい苦手な方が出てくる。これらからすると、小学校で15~20%ぐらいの先生は苦しい中で使っているし、中学校は、30~40%の中で、苦しみながらやっているかなというような感覚である。

【市長】

なるほど。そういう先生たちに対して指導されるのか、それとも強引でも使ってと指導するという方針でいくのか聞きたい。私はタブレットに対する普及期は終わっていると思う。子どもたちも慣れている。だけど苦手な先生にわざわざタブレットを使わせて変な授業をされるよりも、実は教え方がとてもうまく普通に教えたほうが子どもたちの学力は伸びるという先生も絶対ゼロではない。そういう先生たちを皆さんがちゃんと把握して、いや、それでも強引に使えって言っているのか。

【I C T推進員】

強引に使えとは言っていない。研修会とかで教室を回っている。使っていて先生が困っているときを狙って声掛けをしている。やはり強力に使え使えと言うと、拒否反応を示す先生が多分いる。4月には、市外から異動してくる先生だけを集めて、研修会をやって、顔合わせをし、基本の練習からしてもらおう。しばらくしてその先生の授業中に教室の前を通過して、声を掛けてもらったり、緩やかな形で接している。

【市長】

教育委員が言われたように、タブレットはあくまで子どもたちに教えるツールだけだと思うので、使わずに授業をやられる方も尊重すべきだと思う。とはいえ、どういふ方針で多治見市が本当に今後やっていくのかっていうことも、今後ここで議論していくべきなのかなと思う。絶対使ってG I G Aスクール構想にのっかって学力を上げていくんだということなのか。いやもうある程度普及したから、先生が教え方の内容を各個人が選んで、どっちが定着していくかやっていくのかということも本来教育委員会としては、議論を深めていく時期なのかなと思う。

【I C T推進員】

タブレットは日常の文具だと思っている。先生が選ぶのではなく、子どもたち自身がこのときにこれを使ったら便利だと選んで使っていけることを目指している。

【市長】

I C Tを導入して、非常に問題だなんていうことはあるか。

【小学校長】

本校のことを言うと、I C Tのことに限ってではないが、学力学習状況調査をすると、点数的には、結構とれる。先生の教え方を聞くと、分かりやすく教えてもらっていると結構高い数字出る。

問題は、国語好きか、算数好きか聞くと、値がガクッと下がってしまう。成績としては、結果としては出ているが、好きか嫌いかって言われたら、勉強あまり好きじゃないという回答になる。それをうちの学校は何とかしたい。今点数があっても、その子が学ぶことが好きにならなかつたら、この先教えてもらうことは上手になるかもしれないけど、自分で考えてやったりすることはなかなか難しくなる。

I C T使ってやると先生がしゃべることがぐっと減る。いろいろ説明しなくても、見れば分かるとか、あと、先生たちが机を回りながら、あの子はこう考えている、この子はこう考えている、この子とあの子をこのことからもつないだらうまくいくのではないかということのをこれまでは先生がやっていたが、ロイロノートを使って子ども達の意見が全部見えるようにすると、あの子はこんな考えている、僕と違うからあそこ行って聞きたいというのは子どもたち自身でやれるようになる。子どもでできることが増えていくので、子ども自身が考える時間や、活動する時間が増える。それをやることで学ぶことが好きになってほしいなって思いながらやっているが、好きというのがなかなか上がってこない。精華小学校でいうと今なぜ上がってこないのかっていうのを分析しなければならない。

先生の教え方はやっぱり今までの一斉学習の教え方の中にI C Tを入れている。I C Tはこうやって使うといいですよ、ロイロノートの使い方こうですよと言われたとおりに使うものの、何のためにそのロイロノートを使うかっていうところよりもロイロノートを使わなければと取り入れているとすると、それ以上発展していかない、うまく機能していかないだろうから、その問題だったらそこにメスを入れていかなきゃいけない。成果が出ていないところの分析がこれから自分たちが伸びていく種がある。

【事務局（司会）】

年配の先生方がここ数年で、ましてやこのコロナ禍の中で急激に入ってきたものにどこまでアジャストできるかというのは本当に不安だったが、困りながらも、後ろ向きな人は限りなく少ない。使うことが現段階では目標目的になっているかもしれないが、それでも、I C T推進員、教育研究所の働きかけ、あるいは各学校の情報教育主任を中心にいい事例を共有したりとかを日常的にやっている。何が成果かというとな難しい。時間も迫ってきたので、全体の総括ということで、教育長、市長から一言ずつ伺いたい。

【教育長】

今日の総合教育会議、正直結構良かったと思っている。まだ発言したりない教育委員がおられたかもしれないが、市長から忌憚のない投げかけがあったし、教育委員も本音で疑問に思っていることを言っていたので、次回の総合教育会議ではなく、次回

の教育委員会会議も、今日出たテーマについて引き続き何か意見出し合えるように考えていけたらと思う。今まで校長先生を呼んで、各学校の様子を伝えてもらうことが定例化していた。しかし、ICT推進委員に来ていただいて話をしてもらったが、次回以降、同じように来てもらったり、今度は違う方、例えば特別支援の直接やってらっしゃる方に来ていただいて、いろんな変化を持たせて、忌憚なくやりとりするという機会をこれからもっと増やせてもいいなと実感した。今日出たことはいろいろ宿題になったが、それらを検証しながら、こういう会議のやり方もさらに発展させていきたいと思う。

【市長】

今日は皆さんに参加していただき、感謝している。去年は自分も就任1年目で総合教育会議に参加したが、2年目で今年が本番だということもお伝えしたように、せっかくの会議なので、皆さん本音で話しあって、子どもたちの環境をどういうふうにしていくか議論をしないと意味がないと感じている。なので、今ある事例を皆で共有するっていうことではなくて、それを共有した後に課題は何か、改善はどうしたらいいのか話し合っていくのが会議だと思っているので、ちょっと、厳しい意見も出てしまったがそういう思いでやっていきたいと思う。今日出た意見も、本当に今後どうするか、予算をつけていくのかとか、先生たち、教育現場をどうしていくのか、引き続き議論を深めていかないといけないと思う。GIGAスクール構想だけの問題ではないと思うので、教育委員の皆さんにはいろんな知見を持った方々に就任していただいているので、客観的にいろんな問題について話しあっていただきたい。私も完璧な人間ではないし、もちろん教育長も市の教育委員も、学校の先生たちも、いろんな部分で足りないところもある。なので、そういうところを皆で、話し合いながらよりよいまちづくり、教育現場づくりを掲げているので、ぜひとも、ご理解、ご協力いただければ大変ありがたい。第2回の総合教育会議を楽しみにしている。

【事務局】

最後に事務局から事務連絡。教育総合会議の次回の開催予定は令和7年の2月27日15時で同じ時間、同じ場所になる。内容は、学びの多様化への対応と考えている。

【事務局（司会）】

本日の議題を全て終了した。御協議頂いた御意見は事務局としてももう1回整理をして今後につなげていく。これをもって令和6年度第1回教育総合会議を終了する。